

## <辛口時評>

### 「先発・後進」への危機感

9月半ば、中国瀋陽市で開かれた国際会議でアジアサイエンスパーク協会の初代会長に選ばれたので、その経過と所感を述べてみたい。

この協会は3年前 KSP(かながわサイエンスパーク)の主催で東アジアサイエンスパーク交流会議が開かれ、日本3、中国2、韓国2、台湾1の8サイエンスパーク代表が参加し、報告と討論をしたことに始まる。

私がこの会議を提唱したのは、1991年のKSP社長就任以来、東アジアからの見学者が急増し、KSPの経験やノウハウの移転を求められたことによる。私自身、中国や韓国へ数回招かれ、積極的にノウハウを公開してきた。従って東アジアのサイエンスパーク活動にはKSPも一定の貢献をしたと思っている。この交流会議も揺籃(ようらん)期のサイエンスパーク活動を励ます効果があったと思う。

事実、この会議を毎年開くことで一致し、第2回を翌98年、韓国大邱市の慶北大学を核とするテクノパークで開くことが決まった。折柄、韓国では科学工業団地法が施行され、20カ所の計画中5都市で建設が始まるなど「サイエンスパーク元年」と呼ばれる年だったので、国内からも大勢参加した。この会議で東アジアサイエンスパーク協会が結成され、第3回を台湾の新竹科学工業園区で開催することが決まった。昨年(97年)の新竹は台湾大地震の震源に近かったため開催が危ぶまれたが、予定通り立派な会議が開かれ、シンガポール、マレーシア、タイのほかアメリカ、オーストラリア、イスラエルなどもゲストで参加した。中国の参加者が台湾側から暖かく遇されているのが目立った。

さて、以上の経過を経て、今回、瀋陽高新技术産業開発区で第4回会議が開かれたが、南北アメリカ、EU、大洋州など二十九カ国七十九名の海外代表が参加し、中国200余名を含め、これまで最多の300余名の会議になった。

アジアからは日中韓台のほかシンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、インド、スリランカ、イラン、グルジア、ロシア、北朝鮮、アモイ、香港の16カ国、地域が参加した。第1回に比べ飛躍的な増加だ。韓国の参加者が北朝鮮と頻りに接触していたのが印象的だった。

主催者の提案で本会議終了後アジア代表者会議を開き、「アジアサイエンスパーク協会」への改称、役員や規約、瀋陽宣言などについて協議した。会長選出、瀋陽宣言はすぐ了解されたが、その他は次回大会までに会長と次期開催地で詰めることになった。

今回の会議で強く感じたことは、第1にサイエンスパーク＝産業化のための知的創造拠点づくり

の運動が、今やアジア全域に広がってきたことで、IT革命や知識経済時代への移行がアジアに大きなインパクトを与えていることが分かった。

第2に、会議のメインテーマ「孵化新世紀的希望!」が象徴しているように、先進国からのハイテク企業誘致だけでなく、自力起業への努力が始まったことだ。このため各地でインキュベーターづくりが急速に進んでおり、台湾、韓国が先行し、中国、インドもピッチをあげている。

会場になった瀋陽高技術産業開発区の21階建て新築ビルには、100室をもつ本格的インキュベーターが開設されたが、早くも300社の入居希望がある。中国では53の国家級高技術産業開発区が10年間で180万人の雇用を創出し、110カ所のインキュベーターでは2,000社が卒業し、5,200社が入居中。大学発のベンチャーも1万社に達しているという。

数千社のベンチャー企業が生まれブームに沸く韓国では、サイエンスパーク建設と並んでインキュベーターが続々開設され、その1つ大邱テクノパークでは2年半で150社(うち50社が大学発)のベンチャー企業を立ち上げ4社が上場している。台湾では新竹が満杯になり、台中市に新たな科学工業園区を建設中で、インキュベーターも今年3月までに全土で55カ所稼働し、年間500社目標にベンチャー企業の輩出が加速されている。

これまで、アジアはサイエンスパーク活動で米欧に大きく立ち遅れてきたが、近年急ピッチで追いかけて始めた。残念ながら日本は米欧に差をつけられたうえ、アジアからも追い上げられてしだいに先進性を失っている。今後数年のうちにあと300程度のサイエンスパークとインキュベーターを創(つく)るくらいの覚悟がないと、日本はアジアでも起業後進国になってしまう。「先発して後進となる」危機感を持って帰ってきた。